

全国学力・学習状況調査の結果と今後の取組について

横浜市立早渕中学校
校長 福田 昌弘

4月に行われた全国学力・学習状況調査の結果が公表され、それに基づいて早渕中学校としての課題と今後の改善案についてまとめましたのでお知らせいたします。

本校の調査結果の概要と改善案

1. 平均正答率

	早 渕 中	神奈川県	全 国
国 語	65%	65%	64.6%
数 学	61%	58%	57.2%

2. 各教科の調査結果の分析

<国語について>

◆優れている点として

おおむね全国平均と同じ程度かそれ以上の学力が身につけています。基礎・基本の徹底を続けてきた成果として、言語についての知識・理解・技能がやや優れた成果として表れています。

形式では選択式および短答式の問題について、問われている内容をつかみ正しい選択肢を選ぶ力があります。

◆改善を要する点として

記述式の回答について、普段の定期試験と少し違う形式になるだけで、答え方に戸惑ってしまう面が見られました。読み取る能力についても、時間をかけ読み取りを行っている定期試験の範囲とは異なるため、授業で身につけた力を応用させる力がより必要であると思われます。

◆具体的な改善案

国語の授業で得た知識を様々な場面に活用する力が必要です。単なる知識ではなく、生きる力として生かせるよう、様々な解答形式にも慣れる必要があります。また、引き続き基礎・基本の内容を充実させるとともに、ICT等を活用した幅広い学習スタイルで、生徒の思考力と表現力を伸ばしていきたいです。

<数学について>

◆優れている点として

平均正答数（16問中、9.8問）平均正答率（61%）ともに全国や神奈川県の平均を上回っています。特に、三角定規を使った平面図形の分野で全国・神奈川県の平均を大きく上回っていました。

◆改善を要する点として

応用問題の正答率は全国・神奈川県平均を上回っているものの、全体的に低いため応用力を身につける必要があります。

◆具体的な改善案

問題文をしっかりと読みとって、何が必要なのか、どんなことを問われているのかということ判断する力が必要なため、文章題を多く解いて長文に慣れることを大切にします。

3. 質問紙調査結果（本校の特徴や傾向）

生徒質問紙調査の結果から読み取れる早淵中の三年生の生徒の傾向についてまとめてみました。全国や神奈川県と比較して特徴的なものを中心に抜粋してあります。

- ・10%を超える生徒が、朝食をとらずに登校することが多いと答えており、全国の7%よりも多い。
- ・携帯、スマホ、コンピューターの使い方についての約束を、概ね守っている生徒の割合は、県や全国に比べると若干高くなっている。
- ・一日あたりにやっているゲーム（スマホ、コンピューター等）の時間は、県や全国と比べるとやや短い。
- ・学校に行くのは楽しいと思っている生徒の割合は、県や全国よりも高い。
- ・平日の一日あたりの学習時間（塾や家庭教師含む）は、県や全国と比べるとかなり多い。（一日3時間以上は、早淵（33.3%）、神奈川県（20.7%）、全国（12.3%））
- ・塾や家庭教師に教わっている生徒が78%おり、全国の64%よりも多い。
- ・一日あたりの読書時間は県や全国よりもやや少ない。
- ・コンピューターを使用した授業を行っている生徒の割合は高いが、利用の仕方として、他の生徒との意見交換や、調査活動のツールとして使用している生徒は少ない。
- ・各教科の授業の中で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動をよくやったと感じている生徒が多い。
- ・国語、数学、英語ともに、勉強が好きだと思っている生徒の割合は、県や全国と比べてかなり高い。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大による休校期間中（今年の3～5月）、勉強に関して不安を感じた生徒の割合は県や全国の比べてやや少ないが、計画的に学習を続けることができた生徒の割合は高い。

まとめ

昨年度は、コロナの影響で全国学力・学習状況調査が中止となったため、今年は2年ぶりの実施となりました。教科は国語、数学の2教科で、生徒質問紙調査も例年通り行われました。

教科の調査における本校の結果は前ページの表の通りです。県や全国の平均正答率と比べると、国語はほぼ同じぐらい、数学は若干上回っています。この結果は、例年の傾向と同じで、両教科とも基礎・基本的な学力はおおむね身につけていると考えられます。ただし、国語も数学も設問によって「観点」やそのねらいが異なり、中には県、全国の平均を下回る設問や、正答率そのものが低い部分もあります。応用力、思考力を向上させるために、早淵として、今後伸ばしていくべきところを把握でき、学校としてもこれからの授業改善に役立てたいと思っております。

「調査結果の概要と改善案」のところには、教科ごとに正答率の傾向を分析し、改善を要する部分を記述しました。各教科で検討した改善案については、できるだけ早く具体的な取組として授業や生徒の学習活動の中に取り入れ、実践していきたいと考えております。また、質問紙調査の結果についても、本校生徒の特質を的確に把握して、効率よく学習活動が行われるように活用していきたいと思っております。何かご不明な点がございましたら、学校までご連絡ください。